

令和3年度 第1回沼田市市民構想会議の概要について

- 1 日 時 令和3年7月15日（木）午後2時から午後3時

- 2 場 所 沼田市役所 議場（テラス沼田5階）

- 3 出席者
 - (1) 委員 栗原明男委員、池田進一委員、吉野篁委員、青木富士夫委員、田村博史委員、伊藤重雄委員、高橋秀幸委員、小林美幸委員、小林彰幸委員、林康夫委員、小林好委員、阿部健委員、山田龍之介委員、萩原忠和委員、武井義明委員、坂井隆委員、田辺祐己委員、松井孝夫委員 (18名)
 - (2) アドバイザー 篠田 暢之氏
 - (3) 沼田市 横山市長、五十嵐副市長、諸田総務部長
(事務局：星野企画政策課長、生方課長補佐兼政策推進係長、清水副主幹、杉木副主査)

- 4 配付資料
 - ・ 次第
 - ・ 委員名簿
 - ・ 沼田市市民構想会議設置要綱
 - ・ アドバイザープロフィール
 - ・ 令和元年度 第8回沼田市市民構想会議の概要について
 - ・ (資料1) 令和3年度沼田市市民構想会議の運営について (案)
 - ・ (資料2) 「沼田市市民構想会議」の運営に関する基本ルール
 - ・ (資料3) 第2期沼田市まち・ひと・しごと創生総合戦略
 - ・ (資料4) DXについて

- 5 概 要
 - (1) 開 会 (事務局：企画政策課長)
 - (2) 委嘱状交付
 - ・ 横山市長から新委員へ委嘱状を交付。
 - (3) あいさつ

<横山市長>

この市民構想会議は、市民代表の皆様方のご意見を市政へより良く反映させる手掛りを頂く趣旨から始めました。本年は特に国の重要施策がDX（デジタルトランスフォーメーション）へ大きく舵をきり、未来づくりをこの切り口から考える流れとなりました。そのため、この流れに対応できるよう未来を見すえた沼田市の未来の街づくりについて、ご議論を進めて頂けたらと思っています。

群馬県も国のこうした流れを受けて、地方創生部長設置など大きく舵をきっています。沼田市としてもこの流れを、絶好の好機と捉えしっかりとした沼田らしいDXに取り組んでいきたいと考えています。市民構想会議の中で委員の皆さんには是非、DXに関するご意見を積極的に賜り、社会が大きく変革する中で素晴らしい沼田市の未来につながる礎を築いていきたいと考えておりますので、宜しくご協力をお願いします。皆さんの英知を結集していただき素晴らしい市民構想会議にしていだけるよう期待しております。

(4) 自己紹介

各委員からの自己紹介後に、アドバイザーから自己紹介を兼ねてあいさつをいただいた。

<アドバイザーあいさつ概要>

市民構想会議の発足からアドバイザーとして、今年で7年目を迎えました。沼田市とのご縁は古く日本青年会所の街づくり講師として、沼田青年会議所主催の街づくり講演会に招いて頂き、それを機縁に各種の講演会やセミナー講師として沼田市にも多くのご縁を頂き、今年で30年目を迎えました。

ところで、この市民構想会議は従来型の行政主体の街づくりから、住民主体の街づくりへの転換を進める機会となるよう設けられました。この会議は未来を見すえた街のあるべき姿を議論していく会議です。その主体は市民にあり、行政もその声に耳傾け応えるよう取り組む必要があるというお考えから出発したと理解しています。住民主体を基本に、行政が積極的に皆様方のご意見を頂き支援するという発想に基づき、従来の行政主体の街づくりからの脱皮を意図されたものです。

時間はかかっても未来を準備するために粘り強く協議していく。この会議は皆さんの忌憚のないご意見によって、沼田市の未来の街づくりに活かせる知恵を集め、議論する場として期待されています。宜しくお願い致します。

(5) 正副会長の選出について

事務局案承認 会長 田村博史委員

副会長 小林美幸委員

(6) 市民構想会議の概要説明 (事務局：企画政策課長)

(7) 議 題 (事務局：企画政策課長)

- 1) 本市の現状について
- 2) 市民構想会議の運営について

<質疑>

Q DXとは具体的には？

A 具体的には市役所の証明書を自宅から申請でき、バスを自宅から予約できるなど、未来に向けた街の利便性や安全性など

Q DXがわからない

A 市民構想会議2回目以降に具体例を提示させていただき、それをたたき台に協議していただく予定です

Q 全体の年間スケジュールの見える化をしていただきたい

A 次回以降にスケジュールを提示させていただければと思います

(8) 講 話

「2024年変わる世界」 講師： 篠田暢之 先生

日本でも新型コロナウイルス感染症が問題視され始めた昨年の3月11日にはWHO(世界保健機構)事務局長のテドロス氏が今回の新型コロナウイルスはパンデミックであると世界に向けて公表しました。以来コロナウイルスの感染症による今後の社会的影響については、不明な点も多く終息には時間がかかり簡単に収束しないと注意喚起しました。

そのため、コロナ前とコロナ後では私たちの社会生活が大きく異なると考えられており、そのため沼田市における街づくりにもそうした配慮をもとにした議論が求められています。米国の世界的研究機関マックスプランク研究所は2024年度末まではこの事態は簡単に収まらないと昨年初めに発表しました。ワクチン接種が終われば私たちの暮らしがコロナ前の社会に戻るといった軽々しいものではないと、世界の研究者は注意喚起しています。

市民構想会議の委員にもこうした専門家の分析を共通意識として共有し沼田市の街づくりを議論することが重要です。2024年と言えば日本のお札が現行のものから新紙幣や硬貨に変わります。続く2025年にはいままで以上に超高齢社会になります。団塊世代(1947年～1949年生まれ)が75歳の後期高齢者に突入するからです。この問題を『2025年の崖』と表現している研究者もいるほどです。この事態に対処する為にもDX(デジタルトランスフォーメー

ション)の重要性が叫ばれており、こうした施策が進まないで最大で年間12兆円にのぼる経済的損失をこうむり続けると指摘しています。経済的損失を避ける為にもDXが高齢社会における様々な利便性や快適性や安全性を担保できる社会システムを創りあげる好機だという訳です。当然メリットがあればデメリットもあり、拙速を避ける慎重な議論が求められています。

コロナ前はインバウンド政策が国策として進められました。政府の4千万人越えには届きませんでした。政府の予測に近い2000万人越えの倍の訪日観光客を日本に招きいれました。しかし当初に比べ、日本円の価値が半分となりインバウンドによる訪日観光客数が増えても収益的には大きく変わりませんでした。昨年はコロナ禍という事もあり、47万人という数字にとどまりこの事例ひとつからもコロナ前とコロナ後で社会の風景は大きく変わります。こうした社会変化を用心深く自覚して、これからの街づくりに活かす議論が大切だと考えます。

コロナ禍は簡単に収まる気配はなく長期戦での構えが求められており、問題は保健福祉に関わる施策にも街の安全性からも議論が必要です。最初はアウトブレイク(ある特定の地域に広がった)でしたが、エピデミック(もっと広い地域に広がった)となり、パンデミック(全世界に広がった)となりました。経済活動自体も従来の経済活動ではこれまでの維持が困難となる可能性を含んでいます。戦後、人口増加を前提に高度経済成長を達成しました。ところが今は人口減少を基本に少子高齢化が加速しています。1991年のバブル崩壊から年間3万人にのぼる人々が毎年自殺し、四半世紀以上この悲劇が続きました。バブル崩壊後、日本はモノづくりを海外に移す産業構造の空洞化に拍車を掛け、モノづくり大国から消費大国へと変わりました。コロナ禍がその現実を教えてくれました。

コロナは私たちに①いのちの大切さ②人の交わりの大切さ③豊かな生き方の再構築(生きるための未来へのデッサン)の大切さを示唆しました。足し算から引き算へとライフスタイルが変わりつつあり、経済は拡大均衡経済から縮小均衡経済へと激変した時代です。多少の不満があっても行政におまかせするスタイルから、街に住む人々の住民主体を基本とする街づくりが期待されています。行政の広域化から地域住民の皆さんの目線が届き、温かさが住民相互に感じられる、街づくりへと転換する変化が始まっています。成長から成熟社会への転換が急速に、あらゆる分野で進んでいます。

これまでは公共建築物や道路や施設づくりのハードウェアが街づくりの主要なテーマとしてその成果が語られてきました。が、今やむしろ快適性や安全性や利便性や命に優しい暮らしの在り方などといったソフトウェアが主力となって

きています。今回のテーマであるDXもソフトウェアです。ソフトな時代に求められている街づくりのこれからは何が必要か、新しい時代に必要な議論が求められています。私は85年当時、1990年代から2025年までに社会のパラダイム・チェンジ（社会的枠組みの改変）が起き、第4次産業革命の基礎が作られると予見していました。情報収集と情報発信が従来の社会の在り方を変えると分析予測し多くの方々にその重要性を訴えてきました。

コロナ禍が人々を分断しましたが、それによって返って人の繋がり大切さが再認識され、生きることの意味を問うひとつとして、つながりを再考する良い機会となりました。テレワークやリモートワークによる働き方が社会の価値観を変えつつあります。DXはこれからの社会と生き方を考えるそのひとつの手掛りです。未来の可能性を押し広げる議論を皆さま方と共に、豊かな成果につながるご議論が出来ればと思います。

（9）その他

- ・次回の会議日程について説明し、確認いただいた。追加資料等ある場合は事前に送付する

＜第2回＞ 8月19日（木） 午後2時

- ・クールビズ期間中（6月～9月）は、「ノーネクタイ、ノー上着」での対応をお願いした

（10）閉 会（事務局：企画政策課長）